

はちのへ演劇祭はミッシング・リンク足りえるのか？

文/しもさき博之(某ラジオ局の人 お芝居関係者でもあったり)

生物の進化の中に、「ミッシング・リンク」なる言葉が出てくる。A種からC種に進化する過程で、その中間にあるB種の存在の痕跡(化石等)が未確認な状態。生物の進化過程を連なる鎖として見た時に、連続性が欠けた部分を指す。この街の演劇状況にも、その失われた環はあった。いや、無いものが「あった」と言うのは矛盾か。

10年前、はちのへ演劇祭がスタートする辺り、しきりに「演劇の街の復活」が叫ばれていた。しかし、その準備段階で私達は冷たい事実を突きつけられた。

「今八戸で芝居をやりたいけれど劇団もわからないし、どうすればよいですか？」

判っていたことだが、若手にバトンを渡すことが出来ていなかった。「演劇的ミッシング・リンク」だったのだ。

さて、はちのへ演劇祭である。このコロナ禍で第九回は中止、この第十回をもって一旦終焉(こ

こ大事だから線引いておきました)。そもそも舞台芸術は観客の存在が不可欠。小劇場演劇なら尚のこと。無観客配信など芝居ではない。ということ。30分の短編4作と5〜10分程度の超短編をシャッフルしての公演となった。都合で超短編6作中2作は未見なのでここでは短編4作に関して語るが、超短編『A』では田中勉の演技は真骨頂、まさしく水を得た魚のようであったことだけは記しておきたい。

最終日の上演順でいけば『待ちながら』加藤健太郎のねっとりとした演技が印象的。恐怖



大黒屋ぶろでゆーす「閑談」より。
演劇祭がきっかけで演劇をはじめたという人も多い。
ここから、次につなげていくことができるだろうか。

にも通じる存在感がある。作品ごとの舞台転換の手間を省くためか、舞台上手側のみを使用しての構成。正面で観たかった。

まぐねっと・COM『ヒメごと』毎度ながらの「かましい芝居」今様のワードや事象をちりばめての構成はまぐねつとらしさであるが、個人的には、楽屋落ちや「はちのへ演劇祭云々」の台詞には閉口。観客は劇的空間で在りたいのに、其のたびに現実には引き戻される。サービスピ精神であろうが一考いただきたい。

『榎谷の南部昔コ一人芝居』まさに盤石である。榎谷作品は何作も観ているが、ひときわ肩から力の抜けた自然体の演技。いや、演技ですらないのかもしれない。つくづく「役者」なんだなあと感じる。

大黒屋ぶろでゆーす『閑談』大黒屋五郎らしい構成。程よく観客を突き放すのも彼らしい。要所で歩み寄るのも彼らしい。照れくさいからあんまり語らない。

さて、この10年ではちのへ演劇祭は何が出来たのか？ 結論はここから始まる。コロナ禍で舞台芸術の先行きが見えない現状、この演劇祭が次世代へとつながるミッシング・リンクとなれば、傍観者のオチサンは倅いである。

●筆者近況

家庭内引きこもり生活とでも言いましょうか、夕食が終わると自室に潜み、だらだらと真夜中過ぎまで古い映画と読みさしの本と安酒に浸っているダメ人間です。良い子は真似してはいけません。真似する人もいないと思うけど、結構気楽です。

第15回記念 八戸パフォーマンス劇場

八戸市近郊の多彩なジャンルのパフォーマンスによるステージ

新型コロナウイルス感染拡大により公会堂が休館のため中止になりました

(全席自由) 【問合せ】八戸市公会堂 ☎0178-44-7171

演劇空間 スペースベン

～演劇好きのための、演劇の場～

※特別番組以外 金曜日は19時30分～、料金は一般前売500円 大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増し)
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい
八戸市柏崎1-11-8 TEL:080-6025-0990 FAX:050-3588-8350
E-MAIL:owner@spaceben.com URL:https://spaceben.com/



FANS FRIDAY AMUSEMENT NEGATIVE SHOP

FANS予定▶第1461～1464回

2月は、3月上演の「ルーム1」の準備月間です

3月上演「ルーム1」出演予定/加藤健太郎・柏井容子
橋本佳織・高坂大誠・木村豊生 他

WHAT'S "FANS"?

多目的スペース「SpaceBEN」にて、毎週金曜日の夜7時30分から約30分の芝居やダンスやライブを楽しむ企画です。

— 一般前売500円 / 大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増) —